

令和5年度第2回鹿児島県立図書館協議会の会議結果の概要

開催日時	令和6年2月28日（水）午前10時から午前11時30分まで		
開催場所	鹿児島県立図書館 2階 第1研修室 ※オンライン開催		
参加委員	9名 { 原憲一, 作井望, 宇都由美子, 尾場瀬ちなみ, 山本智子, 岡田祐介, 下豊留佳奈, 伊地知弘幸, 須部貴之 }		
公開・非公開の別	公開	傍聴者数	なし
問い合わせ先	鹿児島県立図書館総務課 (代表) 099-224-9511		
議 題			
<ol style="list-style-type: none"> 1 県立図書館の令和5年度主要事業の実施状況及び令和6年度運営計画（案）について 2 県立奄美図書館の令和5年度主要事業の実施状況及び令和6年度運営計画（案）について 			
審議結果等の概要			
各委員から次のような意見・要望が出された。			
【実施状況及び運営計画（案）について】			
<ol style="list-style-type: none"> 1 コロナの影響で来館者減少しているとのことだが、生活様式がどのように変化し、このような状況になっているということについて原因究明をし、改善できるものは早く改善すること。 2 調査相談業務について実績をみるとそれだけ頼られているということが理解できる。ただ1日平均15件の電話対応をしていることとなる。一人10分として2時間以上に及ぶため、業務改善のためにもよくある質問や集中する関心事についてQ&A一覧を作るなどして時間短縮に努めるべき。 3 市町村立図書館への貸出文庫も増加し活動が活性化していることはわかるが、その貸し出した図書がどれくらい利用されているか等の評価に繋がる成果報告をして欲しい。 4 奄美復帰70周年の番組作成に際し、両館にはお世話になった。貴重な資料をずっと保存している公共図書館の力を感じ、その存在というものの大切さを改めて感じる1年であった。 今年度も両館それぞれ工夫して取り組み、従来の公共図書館という枠を外れた活動を行っており素晴らしいと思う。 それにも関わらず利用者等が減っていることは残念だという思いもあるが、出生者数が過去最低を更新したというニュースもあり、その数だけを求めていくのは難しい時代かと思うが、全国の傾向と比べて当県で何か突出した傾向など把握しているか。 → ここ10年間の全国の都道府県立図書館の利用者数、貸出冊数についても、当県同様減少傾向にある。明確な理由は不明だが、市町村立図書館が充実してきており、利用者はより身近なところで十分なサービスを受けられるようになってきたのではないか。県立図書館は市町村立図書館が保存していないような資料についても必要に応じて対応でき、そういった使われ方によって変わってきていると考える。奄美図書館は県立図書館としての機能を有しながら、市立図書館的な機能も兼ねていることから、利用者への直接サービスの向上も図る必要がある。 5 奄美図書館での奄美FMと連携した広報活動は素晴らしい。県立図書館でも告知をしたいことなどがあれば、是非協力したい。放送に携わる我々にとって読書活動の推進を呼びかけていくことはすごく大事なことでありと考えている。 6 奄美図書館では高校生がおはなしの会を開いたり、創作童話の応募も高校生が多かったとのこと。学生の取組が広がると来館者も増加すると思う。学生の関わりが増えている要因は何か。 			

→ 要因については、図書館で1日館長等いろんなことを経験した子どもたちから、こんなことをしたいなどと広がっているのが一つと、もう一つは各高校の先生方と図書館で実施したいことがないか話し合う機会を月1回設けていることがあげられる。

7 大学図書館でも利用者数等について、状況はまったく同じである。今年度はコロナ前と同じように大学が動いているにもかかわらず、コロナ前の2019年度と比べたら圧倒的に利用者数も貸出冊数も少ない。コロナ前は入学した最初の講義でレポート作成の際の参考資料として図書館の資料の活用するよう促し、図書館を見学までさせていたが、コロナ禍で入館制限をかけた時点でデジタル資料の活用に代替してきたことの影響が大きいと思われる。

そうはいっても直接来館してこそみられる資料というものはあるはずであり、特に県立図書館でも、高校生に対し授業の中で県立図書館にしかない資料というものを実感していただき、そういう経験を持ってくると大学に入ったとき、今度は大学の図書館を活用してもらえらる動きにつながるかと感じている。大学生になるまでに育てていただけるとありがたい。

8 図書館運営はコロナ禍でかなり難しくなっていることが感じられた。自分自身もネットでいろいろ調べたり、本を買ったりすようになつたし、鹿児島市でいうと天文館図書館を使っている。コワーキングみたいな形で使え、施設の機能的に使いやすく専門家にとって行きやすい。結局、競合施設とネットの社会というところが利用者数等に影響していると思う。機能的な面とデジタル化が進んでいる社会的な面とのマッチングが多分必要になってくるのかと思う。

インターネットの利用状況が増えており、デジタル化で情報収集するというニーズは高まりつつある。鹿児島県立図書館にしかない情報をどうやってデジタル化して提供していくのか、研究とか研修とかいったところが県の図書館が担うところの本質的な部分であると思う。デジタル化に対応した資料の提供と教育に絡めた場をどうやってつくるのかが大事かと思う。デジタル化については外部職員でも人材の配置が必要かと思う。

デジタル資料を多くの人に活用してもらえるような環境づくりに取り組んでいこうとしているとのことだが、日本だけではなく世界の人々が調査で使えるような仕組みを作っていただければと期待する。世界からメールとかオンラインで問い合わせがあつて相談件数が伸びるとか、そのような時代だと思うので、そこにも対応できるイメージをもって今後進めていただきたい。

9 これまで読書グループとして活動する上で、ヒントをもらいに県立図書館に行っていたが、今年度はなかなか行くことができなかったが、代わりに地元の図書館に行つて選書や貸出のお世話になった。県立図書館の市町村への図書館支援が私たち読書グループにも届いているのではないかと感じ、身近な存在の図書館が心強い存在になれば良いと感じている。

冬の読書フェスティバルで手話を取り入れた試みが良いと思う。案内文書には手話通訳のことなど記載しているのか。

→ 手話通訳は豊学校に通っている生徒や親御さんなど不自由な方も参加したいが、楽しむことができなにか相談を受け、当館の職員も手話を覚えると同時に、ハートピア鹿児島に同時通訳をお願いし実現できた。冬のフェスティバルでは最初からチラシに掲載し、手話通訳が必要な方にも楽しんでもらえるよう広報したところ。

10 来年度令和7年1月の椋鳩十先生の誕生日で生誕120周年の節目になるが、何か企画していることがあれば、私たちも広報のお手伝いができると思うので、早めに情報を教えて欲しい。

→ 令和7年度の親子読書研修会では、講演をお願いしたいと考えている方もおり、令和6年度中に記念事業を検討して取り組んで参りたいと考えている。